

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life



開祖随感

悲鳴を聞き分ける

「お母さんなんか死んでしまえばいいんだ」とわが子に言われたら、親は動転してしまいます。しかし、それが追い詰められた子どもの親に助けを求める悲鳴なのですね。言葉と心は、必ずしも一つではないのです。

「頼みもしないのに、なんで私なんか産んだのよ」などという言葉でカッとなるようでは、親として、まだ駆けだしです。子どもがどんな思いでそんな言葉を親に投げつけるのか、考えられる心のゆとりを持つのが親の愛情です。そのゆとりがないと言葉のどぎつさに引っかかって、怒りだしたり、目の

前が真っ暗になったりしてしまうのです。そんな言葉がどうしてわが子の口から出てきたか、その心の奥の奥を見通せるようになるのが「真観^{しんかん}」です。

会社帰りのサラリーマンが帰宅の途中で一杯やりながら会社の批判をし、上役をこき下ろしている姿をよく見かけますが、これも、悲鳴なのかもしれないのです。観世音菩薩がどんな人も救うことができるのは、そうした人びとの悲鳴の中から、本当の願いを聞き取る力を具えておられるからです。私たちも、そういう力を身につけたいものです。

(『開祖随感』9 p. 172-173)

Living the Lotus
2018年10月号 (Vol.157)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124 / Fax: 03-5341-1224

E-mail: [living.the.lotus.rk-international](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)
[@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 金尾江利子

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



自他ともに 心楽しい精進を

立正佼成会会長 庭野日鏡

樹木が紅葉するように

紅葉^{もみじ}してそれも散行^{ちりゆ}く桜かな

暦^{こよみ}の上では秋を迎えたこの時季の趣^{おもむき}を、俳人^よの与謝蕪村^{ぶそん}がこのように詠^よんでいます。桜の葉が、ほかの樹木に先んじて色づき散るようすを描写した句ですが、春の花がみごとに咲き、散っていく姿を重ねあわせると、与えられた生^{なま}をひたむきに全^{まっ}うする桜木のありように胸を打たれます。

ところで私たちは、ものごとについてそう勤め、励むときなどに、努力^{しよくじん}とか精進という言葉を使います。そのためでしょうか、ひたむきな努力や精進と聞くと、骨の折れる、苦しいことに感じられます。信仰においても、「精進、精進、死ぬまで精進、生まれ変わったらまた精進」といった意気込みにふれると、思わず気圧^{けお}される人もいそうです。

ただ、精進というのは、本来、気負って努めることでも、苦しみに耐えながら励むことでもないと思うのです。

「精進」の「精」の字は、米^{こめ}を搗^ついて白く^{せいはいく}（精白）することで、そのことから、純一無^{じゆんいつむ}雑、つまり、まじり気のない前向きな生き方をすることを精進といいます。また「精」の字には、「もと」とか「本来の力」という意味もありますから、私たちがよく口にする「精進しましょう」は、「まじり気のない自分本来の力を、まっすぐに発揮していこう」という意味と受けとることができるのです。

そう考えると、冒頭の句のような、桜の葉が紅葉し、散るといった自然^{いとな}の営みは、すべてが精進のありようを示すお手本といえます。そして私たちも、絶えず創造・変化する自然の一部ですから、「天地自然^{ことわり}の理^{しだが}に随^{したが}って生きるように」と勤めることが精進であり、「八正道^{はっしょうどう}」に示される「正精進^{しょう}」とは、そのことをいうのではないのでしょうか。

本来の自分に出会う

ただ、樹木と違って、私たち人間には自分本位の^が我が出ることがあります。好き嫌い^よや善^あし悪^あしなど自分のものさしがあり、目の前の現象を素直に受けとれなくなる時があります。そのとき、心を真理にそわせていく工夫をこらすことが「精進する」ということで、その工夫、つまり、ときに応じた精進のあり方を、^{しゃくそん}釈尊はさまざまに説き示されています。

たとえば、「信仰が私の播^まく種^{たんれん}であり、鍛練が雨である。／智慧^{ち え}が私の犁^{すき}であり、恥^{なかせ}じることが轡^しである。／心が縛^{しば}る縄^{なわ}であり、内省^{ないせい}が犁^{つぎ}先と突棒^{ぼう}である。／身と言葉^{つつし}を慎^{しん}み、食^くを節^{せつ}して過食^{くわ}しない。／真実^{しんじつ}を守ることは私の草刈^{くさ}りである。／^{にゅうわ}柔和^{くびき}は牛の軛^くを離^{はな}すことである……」という、拙著^{せつ}（『心田^{しん}を耕^{かう}す』）でもご紹介した詩偈^{しげ}のなかの、「恥^はじる」「内省^{ないせい}する」「身と言葉^{みとことば}を慎^{しん}む」「過食^{くわ}しない」「真実^{しんじつ}を守る」「柔和^{じゅうわ}」などの姿勢をとおして、ときどき顔をだす自分のわがままな心を反省^{はんしやう}したり、懺悔^{ざんげ}したりしながら本来の自分に戻るのです。ただし、やはりどれも気負^{きふ}って努^なめるのではなく、むしろ自分もまわりの人も、ともに心楽^{しんらく}になるような工夫ととらえてみてはどうでしょう。

少し言葉を慎^{しん}むだけで調和^{てうわ}が生まれ、柔和^{じゅうわ}に接^{せつ}することで相手の心がほぐれます。腹八分目で体が楽なのは、だれもみな体験していることでしょう。

以前、まるでこの詩偈^{しげ}を写したかのような、「正精進^{しやうしやうじん}の心で日々をすごす誓^{ちか}い」を機関誌で見たことがあります。「人の喜^{よろこ}ぶことをしよう」「人に親^おしまれる自分になろう」「自分に恥^はじない行動^{こうどう}をしよう」「人にはやさしく親切^{しんせつ}にしよう」「絶対に怒^{いか}らない自分になろう」。このことを日々くり返し自分に言い聞^{きこ}かせ、ときには反省^{はんしやう}しながら仏道^{ぶつどう}を歩^{ある}む喜^{よろこ}びを語^{かた}っておられたのです。それは、精進^{しやうじん}をとおして本来の自分に出会^{であ}う喜^{よろこ}びだと思います。そして、この本来の自分とは、いうまでもなく仏性^{ぶつじやう}にほかなりません。

（『佼成』2018年10月号）





私の人生を変えたご法の実践



プラカッシュ・クマール
中央デリー法座

この体験説法は、2018年6月10日に中央デリー法座で行なわれたご命日式典で発表されたものです。

皆さま、おはようございます。本日は大切なお説法のお役をいただき、誠にありがとうございます。

私はプラカッシュ・クマールと申します。インドのビハール州にあるバーガルプールという小さな都市で、父ジャーと母ミシュラの間に次男として生を受けました。私には兄と二人の姉がおります。末っ子の私を両親はとても可愛がってくれ、私もそんな両親が大好きでした。

これまでの人生を通して私に変わらぬ愛情を注いでくれたすべての方々、また苦楽を共にしてくださった方々に対し感謝の気持ちでいっぱいです。私は両親と祖父母の愛情をたっぷり受けて育ちました。少年時代、祖母は夜になると私によく物語を聞かせてくれました。しかし、祖父母は早く亡くなり、愛する人を亡くした悲しみは今でも消えていません。私はまた、親友の一人も失いました。デング熱

が原因でしたが、父親のいない彼の家は貧しく、十分な治療を受けられなかったのです。しかし当時8歳の私には何が起きているのか理解することはできませんでした。私はとても孤立した気分になり、「人はなぜ死ぬのか？」「神さまはなぜ苦しむ人に手を差し伸べてくださらないのか？」「人は何のために生きるのか？」「なぜ人々は苦しむのか？」「なぜ人は妬み合うのか？」など、たくさんの疑問が私の頭の中を駆け巡りました。

しかし、やがて勉強やスポーツで忙しくなると、そうした疑問は私の頭から離れていきました。私は優秀な生徒ではありませんでしたが、スポーツは万能でした。クリケットと水泳が好きで、それぞれを得意としていました。

父は短気な性格で、私は父が人を怒鳴ったり口論しているのを何度も目にしました。そんな父を私は好きではありませんでした。父が大きな声を出しているのを聞くと、母はいつもうろたえていました。そんな時、私はよく「心配いらないよ。いつかきっと大丈夫な日があるから」と母に笑顔で声をかけていました。

ある日、父の機嫌が良いときに、「なぜそんなに怒るの？お母さんも僕ももっと静かな雰囲気が好きなのに。お父さんの怒った顔を見るとお母さんは具合が悪くなるんだよ」と父に言いました。父は「わかった。これからは怒っている顔を見せたりはしない



中央デリー法座で説法をするクマール氏

よ」と言ってくれました。しかし、ある日学校から帰ると、父が些細なことで母を怒鳴りつけていて、母が泣いている姿を見てしまったのです。その時、私はどうしてよいかわからず、パニックになってしまいました。

短気な性格の一方で、父には私をいつも励まし元気づけてくれるという一面もありました。何も上手くいかないで悩んでいると、父は「いいかい、不可能なことは何もない。お前ならきっとできるはずだ」と言ってくれました。時としてそれが苦痛に感じられることもありましたが、とにかく父の言う通りやり遂げできました。

私は子どものころからずっとわがままな性格を通してきました。いつも自分の成功だけを考え、友達や親戚の人たちの気持ちなど考えもせず、自分の正しさを証明することで頭がいっぱいでした。私は人の話を聞くのが得意ではなく、他人の話を辛抱して聞くことができませんでした。いつも真っ先に自分の意見を押し通そうとし、会話をしている最中でも人が話しているのを遮ることもたびたびありました。本当に自分勝手な性格でした。

私は大学に行き学士号を取得しましたが、ちょうどその頃姉が結婚し、父はそのために借金を抱えることになりました。結婚に必要な資金が足りなかったため、銀行からお金を借りたのです。

家の経済状態が悪化し、私は仕事を探すためにバーガールプールの町を出ることを決めました。当時

私は22歳で、その時私の第二の人生がスタートしました。私はデリーに引っ越しをし、生活をするためにさまざまな苦労を経験しました。しかし、デリーで働く以外に選択肢がなかったため、諦めるわけにはいきません。私は衣料品を生産する会社に仕事を見つけ、新人で職場経験もなかったため、助手としてそこで働きました。そして、チームの一員としての働き方や、チームワークの強さを学びました。

数か月後、私は仕事を変え、BPO(業務プロセスアウトソーシング)の分野の仕事に就きました。しかし、そこでの給料はあまりよくありませんでした。父の借金のことで頭がいっぱいで、よく眠れない日々が続きました。そのため、私はアルバイトと常勤の二つの仕事を掛け持ちで働くことを決め、面接に行き、採用を得ることができました。その時から家のために少しでも貯金をし、父の借金返済を手伝うことができるようになりました。有難いことに、両親のために役に立つことができたのです。

しかし、仕事を掛け持ちしていた時は、人生で一番つらい時期でもありました。私は幸福を感じることができず、「なぜ家のために自分がこんなに働かなくてはいけないのか」「父は母のことをどう思っているのか」など、さまざまな不安や苦悩で頭の中はいっぱいでした。自己中心的で傲慢になっていた私は、父に敬意をはらうこともしませんでした。のちに仏性を視野にその時の状況を振り返ったとき、父は短気な性格ではあったけれど、家族のために全力

を尽くしてくれていたことに気づくことができました。

一年後、私は再び仕事を変え、顧客サポートの上級スタッフとして民間企業に就職しました。そして、その一年半後にはリーダーに昇格しました。

私は2013年6月12日に、立正佼成会に入会しました。私を立正佼成会に導いてくださったアミット・クマール前主任さんに、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。その後、現主任さんと副主任さんにお会いしました。現在私は、母から1500キロメートル離れた場所で暮らしていますが、一人暮らしを意識したことは一度もありません。主任さんはいつも私を実の息子のように扱ってくださり、私は主任さんをご法の母として尊敬しています。また、ご法の仲間たちからいただいている大きな支えを、私は決して忘れません。皆さんからいただいたすべてのご恩に心から感謝いたします。また、私を皆さんのような素敵なご法の家族に引き合わせてくれた立正佼成会に感謝しています。

ご供養や法座などご法の実践を通して、たくさんの素晴らしい学びをいただきました。一人一人に笑顔で挨拶をし、毎日感謝の心を言葉で伝え、履物をキレイに揃えるなど、私は基本的なご法の実践を始めました。佼成会では、常に善い行ないを心掛け、人々の悲しみの原因になったり他人を傷つけたりしないことを、いつも教えていただけてきました。人々の幸せを願い、見返りを求めずに努力することが大切であること、そうすることであらゆる人が本当

の幸せを得ることができることも学ばせていただきました。私は職場の同僚たちが時間内に仕事を終わらせるように手伝ってあげるようになりました。同僚たちが笑顔でお礼を言ってくれることが私にはうれしく、上司からもさまざまな場面で私の仕事を評価していただけるようになりました。

三つの基本信行である「ご供養」「導き・手どり・法座」「ご法の習学」の実践を通して、私は人生の大きな変化を経験しました。そして、ご供養がすべての扉を開く鍵だということを知ったのです。

ここで、南アジア国際伝道センターの島村雅俊センター長さんに、私の特別な感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。センター長さんの励ましから私は自信をいただき、自分の可能性に気づくことができ、また自信を取り戻すことができました。センター長さんにご指導をいただき、支えていただいたことの大きさは、言葉で言い表すことができません。センター長さんのお説法を拝聴し、若い頃にどれほど多くの困難を乗り越えてこられたのか、また先輩方のご指導を受けながら、立正佼成会の教えの実践を通して、どのように危機的な状況に立ち向かい、ご家族を幸せにされたのか学ばせていただくことができました。おかげさまで、私も自分の目標を見つけ、その目標の実現に向け力をいただくことができました。

タイのバンコクで行なわれた法華経セミナーに参加した時、私はたくさんの新しい学びをいただける

加した時、私はたくさんの新しい学びをいただける
とワクワクしました。また、私はセミナーの司会のお
役をいただき、とても光栄に思いました。司会のお
役をいただくのは初めてでしたので、最初は緊張し
ていました。私は当時のバンコク教会の教会長さん
がくださった「すばらしい司会ですね。その調子で
続けてください」という励ましのお言葉が忘れられま
せん。また、スリランカ教会とバングラデシュ教会の
教会長さんにも感謝申し上げたいと思います。私に
とって偉大な師である三人の教会長さんの、その深
い思慮と寛大さに感謝いたします。お釈迦さまのご
生涯と私たちに与えられた使命について、私は教
会長さん方から多くのことを学ばせていただきました。
私が教えを理解できたのは、教会長さん方のす
ばらしい教え方のおかげさまです。

講義が終わるたびに、私は自分の進行の仕方につ
いて、通訳者の感想を聞きに行きました。通訳者
の方々は簡潔で有益なアドバイスをくださいまし
た。通訳者の皆さん、バンコク教会と日本から来てく
ださったスタッフの皆さん、またアジア諸国から参加
し、セミナーを通してすばらしい時間を共に過ごし
たご法の仲間たちに対し、私は感謝の気持ちをお
伝えしたいと思います。私たち全員が協力すること
で、セミナーは大成功を収めることができました。

仏性に関する講義に参加している時、私は自分
と父を結びつける強い霊気を感じ、同時に過去の
すべての出来事が記憶によみがえってきました。感

情が高まり、たくさんの出来事が映像となって心の
眼に映っては消えていきました。

セミナーが無事に終わりデリーに戻ると、父が体
調を崩していることを知らせる電話があり、私はすぐ
に父に会いに行きました。父は私に会えたことをと
ても喜んで、いろいろな話をしてくれました。私は父
の話を遮ることなく、ひと言ひと言を注意深く聞か
せていただきました。そして、「僕と一緒にいる。き
っと良くなるよ」と父に伝えました。すると、驚いたこ
とにすぐにその日から父の体調は回復し始めたの
です。私は父に「ずっと一緒にいるから、どうか怒り
の心を解放して、幸福を感じてほしい」とお願いし
ました。そしてデリー支部(当時)のリーダーに電話
をし、しばらく地元で父と一緒にいたいので次の研
修には参加できないと伝えました。リーダーはすぐ
に了解してくださり、「両親のお世話をするのも菩
薩行の一つの実践です。私たちもお父さまの回復
を念じています」と言ってくださいました。その日以
来父は変わり、いまでは謙虚で穏やかな性格にな
りました。

私は友人たちにもこの素晴らしい教えをお伝え
し、さまざまな人生苦から抜け出すための力になるこ
とができました。私は開祖さまのお言葉と会長先生
のご指導を常に心に留めて生活しています。今までに
多くの人に教えをお伝えし、そのうちの何人かは入
会してくださいました。立正佼成会の更なる発展を願
って、これからも布教を続けてまいりたいと思います。

いま私は立正佼成会のスタッフであることに感謝しています。奉職員にならせていただいた後、シュモン・ボルアさんにお会いしました。シュモンさんの謙虚で常に努力を惜しまない姿勢には頭が下がります。シュモンさんから貴重なご指導をいただき、常に支えていただきながら、正しい道をめざす毎日です。心を啓発してくださる人と毎日一緒に仕事ができるのは本当に幸運なことです。シュモンさんのご指導とご親切へのご恩を、私は一生忘れません。

人生の最も重要な目的は、人さまを救うことです。そして、真の幸福とは、自分自身と人さまの両方が救われることです。立正佼成会は仏になるための生き方を私に教えてくださっています。法華経セミナーで私は仏性について学びました。仏性はあらゆる人に具わっており、私たちに必要なのは、自らの仏性に気づくこと、そして人さまの仏性に気づき、礼拝することなのです。

今年の3月5日、大聖堂で立正佼成会の創立80周年記念式典が行なわれたとき、有難いことに式典参加のお手配をいただくことができました。座席につき、会長先生の記念の日のご法話を聞かせていただき、最高の幸せを感じました。私の夢は菅沼にある開祖さまの生誕地を参拝することでしたが、その夢がこんなにも早く実現するとは思いませんでした。菅沼は私が今まで訪れたなかで最も穏やかな場所の一つでした。生誕地道場の道場長さんが、開祖さまのご生家と小学校に私たち参拝者を

案内してくださいました。小学校までの道すがら、少年時代の開祖さまが人々の幸せを願って手を合わせていた神社や、夏になると泳いでいた池がありました。池は全面雪で覆われていました。世界中の人々を真の幸福に導く法華経の教えに出会うまで、開祖さまが人並外れた努力をされたに違いないことに、そのとき気づかせていただきました。

人生の紆余曲折を経験するたびに私を支えてくださったサンガの皆さんにとっても感謝しています。来たる教団創立100年に向け、今後もサンガの皆さんと共に精進し、次期20年の目標を達成できるよう精進してまいりたいと思います。自分の地域で、積極的に教えを説き弘めるよう全力を尽くしてまいります。

み仏さま、開祖さま、会長先生、ありがとうございます。皆さま、ありがとうございました。



2017年青年幹部教育の参加者と(前列左端)

Living the **LOTUS**



妙法蓮華経 方便品第二

この品は、《如来寿量品第十六》とともに、昔から法華経の大きな中心をなすものとされています。なぜ、そんなに大切なのでしょうか。そのことに気を配りながら、先ずこの品のあらましをたどってみることにしましょう。

ずっと三昧に入っておられたお釈迦さまは、ようやくそれを終えられると、だれの質問をも待たずに、説法をお始めになりました。先ずお釈迦さまは、〈仏の智慧というのは非常に奥深いものであって、この宇宙のぎりぎりの根本真理を悟ったものである〉、そして、〈その根本真理はあまりにも深遠で普通の人には理解できないので、これまでは人びとの理解力に応じてさまざまな教えに説き分けてきた。人びとはそれによって一応は救いに達したけれども、それらの教えの奥にある真意はだれも知らなかった〉ということを力説されます。

十如是と一念三千

ここまでお説きになりますと、お釈迦さまは急に黙りこんでしまわれました。ややあって、再びお口を開かれ、次のようにおおせだされたのです。

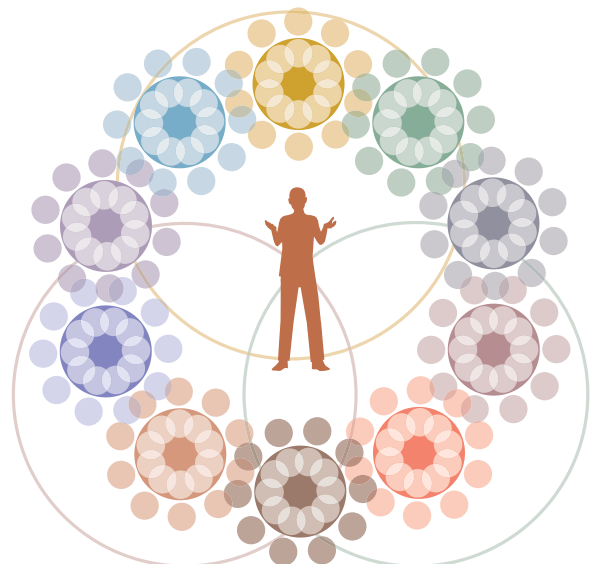
「やめよう。舍利弗。これを説明してみても、分かるはずがないと思います。なぜならば、わたしが究めた真理

というのは、仏と仏とのあいだでしか理解することのできないものであるからです。それは、この世のすべての現象(諸法)には、もちまへの相(すがた形)があり、もちまへの性(性質)があり、もちまへの体(現象のうえでの主体)があり、もちまへの力(潜在能力)があり、その潜在能力がはたらきだしていろいろな作(作用)をなすときは、その因(原因)・縁(条件)によって千差万別の果(結果)・報(あとに残す影響)をつくりだすものであるが、それらの変化はただ一つの真理に基づくものであり、現象のうえでは千差万別に見えるけれども、その相から報までは常に等しい(本末究竟等)のである……ということです」

これが、〈略法華〉ともいわれる〈十如是〉の教えです。〈諸法実相〉ということを端的にいいあらわしたものです。この教えからわれわれの人生を考えてみると、次のように解説することができます。

まず第一に、われわれ人間にはそれぞれ個性というものがあります。すなわち、もちまへの相・性・体をもっているわけです。そして、その相・性・体にふさわしい能力と作用があります。それが力・作です。しかし、これらは、決して固定的で不変のものではないのです。どうにでも流動・変化させうるものなのです。

われわれは、ともすれば自分の個性は「どうにもならぬものだ」と思い込みがちですが、「そうではない。原因



三止三請

(因)に条件(縁)を与えさえすれば、それにふさわしい結果(果)や影響(報)があらわれてくるものであり、個性というものも変えられるようにできているのだ」ということが、この〈十如是〉によって教えられているのです。

従って、人間の心の中には仏の境地へ上がれる可能性も内在しており、逆に、地獄へ落ちる可能性も内在していることとなります。このことを天台大師はさらに分析して、〈一念三千〉という教えとして説かれています。人間の心のもち方ひとつで、三千の世界(ありとあらゆる世界)が変わるということです。ですから、この〈十如是〉の教え、〈一念三千〉の教えを理解できれば、「この自分はどうにも変えようがない」と思っていたのに、「いや、どうにも変えることができるのだ。仏にさえなりうるのだ」と分かります。こんなにありがたいことはありません。われわれの人生は一変して、輝かしい光明に満ちあふれたものとなり、「よし、やろう」という決意をもたざるをえなくなるのです。こうしたことから古来、この〈十如是〉の教えを〈略法華〉と呼んで尊んでいるわけです。

しかし、この〈十如是〉が、いきなりお釈迦さまによって説かれたこの時点では、このように自分の人生に当てはめて考えるなどということはできようはずありませんでした。ですから、その場にいた一同は、あまりの難しさに、ただポカンとしているばかりです。

さらにお釈迦さまは、これまでに説いてきた方便の教え(それぞれの人と場合に即した適切な教え)も、つまりはそのような仏の智慧から出たものにほかならないのだ——と、今度は方便というものの尊さについて盛んに強調されるのです。

ますます分からなくなりました。一方では仏さまの悟られた最高至上の真理についてお説きになるかと思えば、一方ではグッと身近な方便の教えを讃歎される……そこにどんなつながりがあるのか、頭がこんがらがってしまいそうな気持ちです。

たまりかねた舍利弗が、そのことについてお尋ねしますと、お釈迦さまは、「それを説明すれば、かえって多くの人が疑惑に陥るだろうから、やめておいたほうがよかろう」とおっしゃって、お答えになりません。ところが舍利弗は、三度も断られたのに、あくまでもすがりつくようにしてお願いしたのです。

お釈迦さまも、もともとこの法を説いてあげなければ……というお気持ちがあられたからこそ、だれの質問をも待たずに説法をお始めになったのですから、こうしてためらいをお見せになったのは、実は人びとにしっかり聞こうという気構えをつくらせるお心遣いにほかならなかったのです。そこで、舍利弗の熱心な願いによって、一同の心にも覚悟ができたご覧になると、いよいよご説法を始めようとされました。

五千起去

すると、どうしたことでしょう。お釈迦さまがお口を開かれたとたん、一座にいた五千人の人たちがにわかに立ち上がって、退場してしまったのです。お釈迦さまは、じっとそれをご覧になったまま、止めようともされませんでした。そして、それらの人びとがすっかり退場してしまうのを見届けられてから、再び説法を始められたのです。

一大事の因縁〈開・示・悟・入〉

そのいちばん肝心なところを抜粋しますと、

「仏というものは、ただ一つの大事な目的のために、この世に出現するのです。それは何かといえば、万物万象の実相を見通している仏の智慧に、すべての人の目を開かせ、清らかな心を得させようという願いのためです〈開〉。また、そういう仏の智慧の廣大無辺さを、

すべての人に示そうという願いのためです〈示〉。また、そういう仏の智慧をすべての人に、みずからの体験によって身にしみて悟らせようという願いのためです〈悟〉。また、そういう仏の智慧を成就する道へ、すべての人を導き入れようという願いのためです〈入〉。このことを、もろもろの仏はただ一つの大事な目的をもって、この世に出現されるというのです」

このように、お釈迦さまはここではじめて、諸仏出世の一大事の因縁を明らかにされたわけです。

開三顯一の宣言

続いてお釈迦さまは、開三顯一(声聞乗・縁覺乗・菩薩乗の三乗を開いて、一仏乗を顯わす)の宣言をなされます。

「結論をいしましょう。もろもろの仏は、ただひたすら菩薩を教化されるのです。さまざまな方法をもって説かれるのも、ただ諸法実相を悟る仏の智慧を、衆生に悟らせるためなのです。ただこの一事のためにほかにはないのです。如来は〈すべての人を平等に仏の境地へ導く〉というただ一つの目的のために、衆生に対して教を説かれるのです。真実はほかにありません。二つの教えとか、三つの教えとか、そういう区別は本来ないのです」

「わたしは、未だかつて、『あなたがたは、必ず仏になることができるのだ』と説いたことはありませんでした。それは、まだ説くべき時期ではなかったからで、今こそまさにその時です。決心して最高の教である大乘を説くのです」

「わたしが説いてきたさまざまな方便の教え〈九部の教え(小乗の教え)〉は、人びとの機根に合わせて説いてきたものです。それらは、大乘の教えに入る手がかりとしての教えだったのです。心が清く柔軟で、真理に対

して素直であり、仏の説かれる教を正しく行じている人が大勢できた今、その人たちのためにわたしは、大乘の教を説くのです」

「たとえば、ある人が仏塔を拝んで、ひとこと『南無仏』と唱えたとしても、あるいは子どもが木の枝で地べたに仏の絵をいたずら書きしたとしても、それが仏となる縁になるものであって、そのような、一見つまらぬようなことでも、やはり最高真実の道、すなわち〈仏となる道〉につながっているのです。ですから、決して方便というものを軽んじてはなりません。〈方便すなわち真実〉ということをお忘れはならないのです」

「いわんや、いままでわたしが無上の真理に基づいて説いてきた〈九部の教え〉を、素直に聞いて、清らかな心になっている皆さんは、明らかに〈仏となる道〉を歩んでいるのです。みんな菩薩なのです。この真実を悟り、それに大いなる喜びをおぼえるならば、皆さんは将来必ず仏になることができます」

こうお説きになって、この品の説法は終わりとなります。



(庭野日敬著『法華三部經 各品のあらましと要点』
佼成出版社、2016年[初版 1991年]、p 33-42)



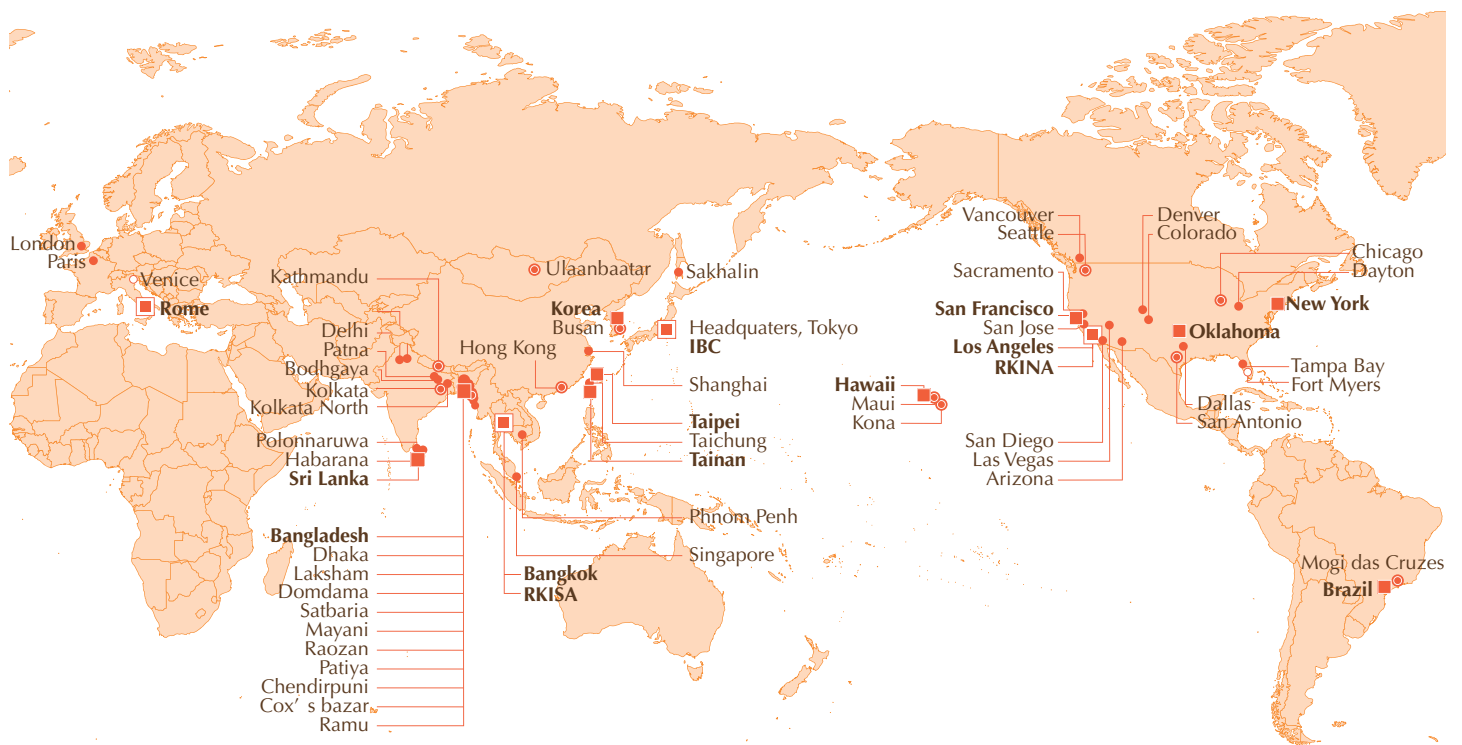
本来の自分に出会う精進

10月というと、スポーツの秋や読書の秋、芋ほりやブドウ狩り、ハロウィンなどを思い浮かべます。佼成会員にとっては、お会式一乗まつりや生誕地まつりを真っ先に思い浮かべる人が多いのではないかと思います。今年のもう一つ、サンアントニオ支部の入仏落慶も特別な喜びですね。

しかし、いちばんは、「開祖さま入寂会」です。会長先生は開祖葬の歎徳文の中で、開祖さまが釈尊と同じ願いを持ち、同じようにそのご生涯を過ごされたことを述べられていました。それは、本会創立の精神「一人でも多くの人に法華経に示された人間の生き方を知ってもらい、本当の幸せを自分のものにしていただきたい」に表れています。

今月は、開祖さまのこの御心をわが心とし、本来の自分（仏性）に出会えるような楽しい精進をお誓いさせていただきます！

国際伝道部長
齋藤 高市



🌸 RISSHO KOSEI-KAI INTERNATIONAL BRANCHES 🌸

✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai Overseas Dharma Centers

2018

Rissho Kosei-kai International

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street Suite #1 Los Angeles CA 90033 U.S.A.
Tel: 1-323-262-4430 *Fax:* 1-323-262-4437
e-mail: info@rkina.org <http://www.rkina.org>

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way,
WA 98003 U.S.A.
Tel: 1-253-945-0024 *Fax:* 1-253-945-0261
e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
<http://buddhistlearningcenter.org/>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
P.O. Box 692148, San Antonio, TX 78269, USA
Tel: 1-210-561-7991 *Fax:* 1-210-696-7745
e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
<http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay

2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
Tel: (727) 560-2927 *e-mail:* rktampabay@yahoo.com
<http://www.buddhismtampabay.org/>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
Tel: 1-808-455-3212 *Fax:* 1-808-455-4633
e-mail: info@rkhawaii.org <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
Tel: 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona,
HI 96740 U.S.A.
Tel: 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
Tel: 1-323-269-4741 *Fax:* 1-323-269-4567
e-mail: rk-la@sbcglobal.net <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
Tel: 1-650-359-6951
e-mail: info@rksf.org <http://www.rksf.org>

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
Tel: 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499
e-mail: rkny39@gmail.com <http://rk-ny.org/>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
Tel : 1-773-842-5654 *e-mail:* murakami4838@aol.com
<http://home.earthlink.net/~rkchi/>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

<http://www.rkftmyersbuddhism.org/>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
Tel & Fax: 1-405-943-5030
e-mail: rkokdc@gmail.com <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai, Dharma Center of Denver

1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
<http://www.rkina-dayton.com/>

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
CEP 04116-060 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
Fax: 55-11-5549-4304
e-mail: risho@terra.com.br <http://www.rkk.org.br>

Rissho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei

4F, No. 10 Hengyang Road, Zhongzheng District,
Taipei City 100 Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433
<http://kosei-kai.blogspot.com/>

Rissho Kosei-kai of Tainan

No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701 Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 *Fax:* 886-6-289-1488

Korean Rissho Kosei-kai

6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 *Fax:* 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 *Fax:* 82-51-643-5572

Branches under the Headquarters

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation
Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia
Tel & Fax : 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai of Paris

International Buddhist Congregation (IBC)

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp <http://www.ibc-rk.org/>

Rissho Kosei-kai of South Asia Division

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218
e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division

Rissho Kosei-kai of Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar, New Delhi
110060, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya

Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur,
Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna

Rissho Kosei-kai of Singapore

Thai Rissho Friendship Foundation

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218 *e-mail:* info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka

House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh
Tel: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani

Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station: Mirshari,
District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya

Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama

Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria

Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham

Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan

West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni

Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu

Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
Tel: 94-11-2982406 *Fax:* 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana

151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Other Groups

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai